

## 屋根間外壁の入力方法

文書管理番号：1255-01

### Q. 質問

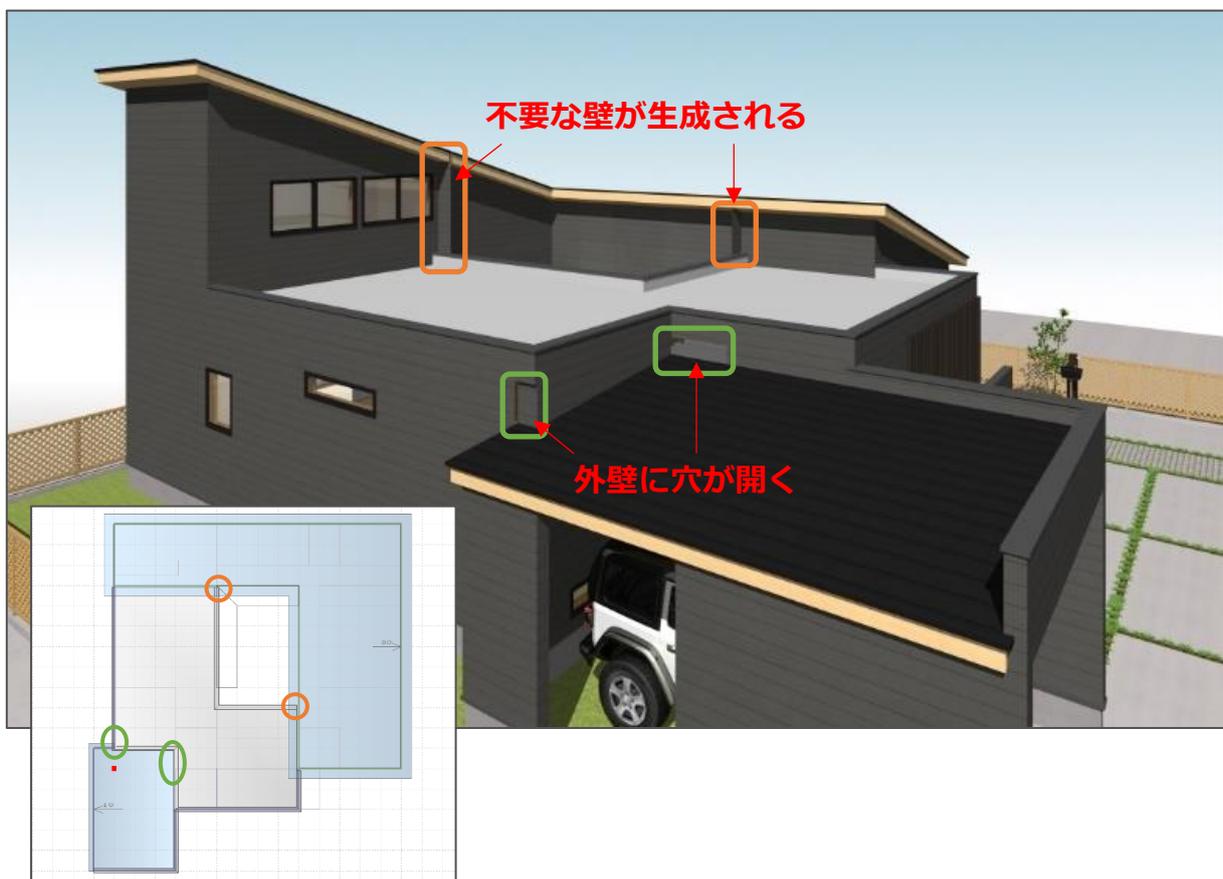
屋根間外壁はどのように利用すればよいか。

### A. 回答

屋根間外壁は、同一階で異なる高さの屋根が重なって配置されている場合に、その段差部に外壁を生成する機能です。

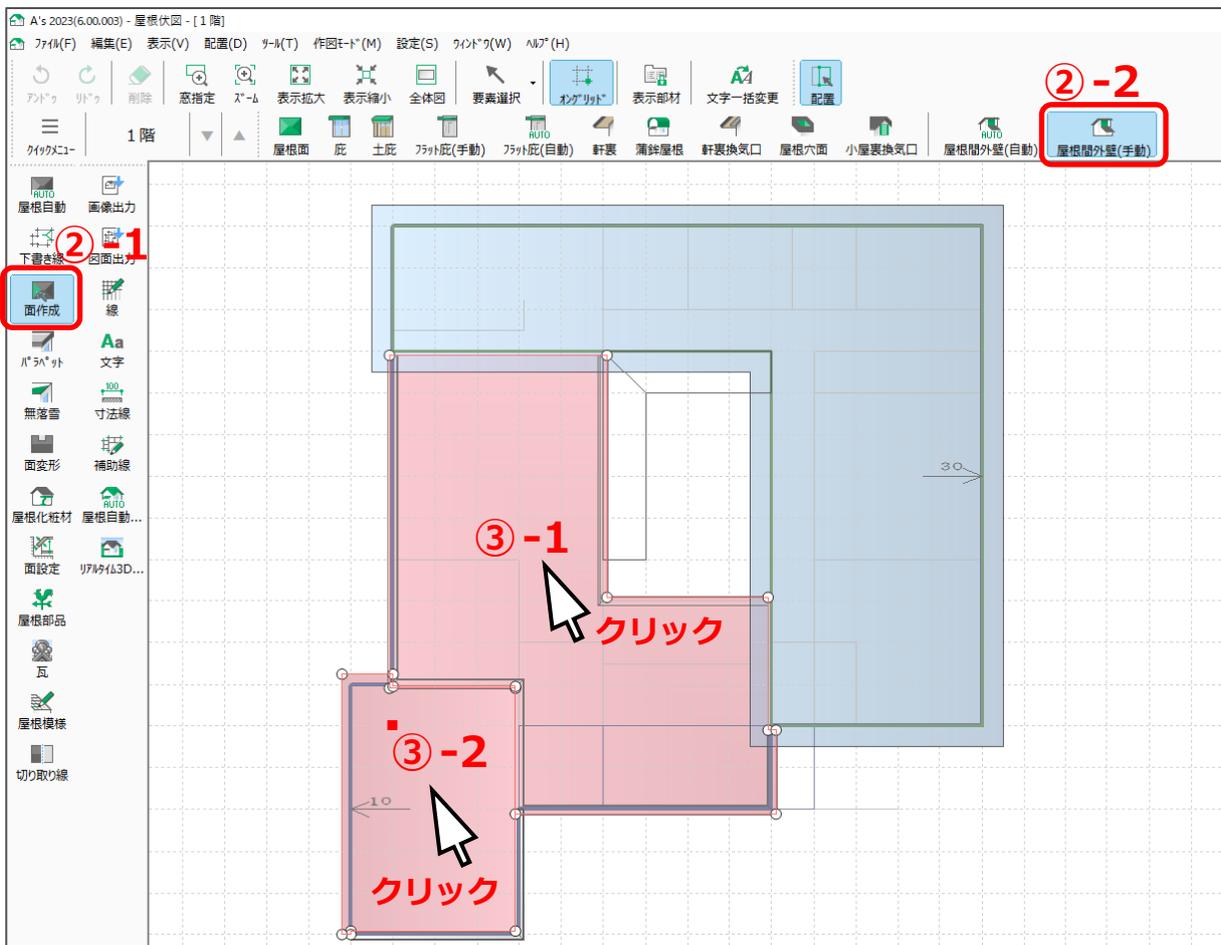
本来、自動で外壁を生成させる動きがありますが、建物・屋根の形状や屋根の入力方法により、不要な壁が生成されたり、壁に段差や穴が空いたりし、意図しない形状になることがあります。 (屋根伏図) で屋根間外壁を入力することで、任意で指定した箇所に外壁面を生成させることができます。

ここでは、次のような物件で、屋根間外壁を使用し、不要な壁の生成や穴を回避する方法を説明します。



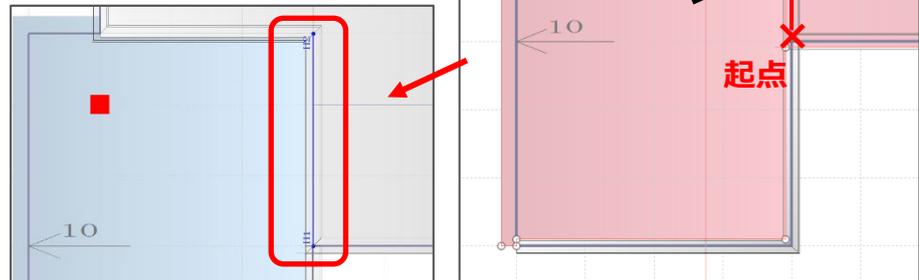
## 操作手順

- ① ≡ (クイックメニュー)またはメインメニューから、 (屋根伏図)を起動
- ②  (面作成)から  (屋根間外壁(手動))をクリック
- ③ 対象となる屋根をそれぞれクリック
  - \* 屋根間外壁を設定する、高さの異なる屋根をそれぞれクリックします。  
高い屋根、低い屋根どちらを先にクリックしてもかまいません。



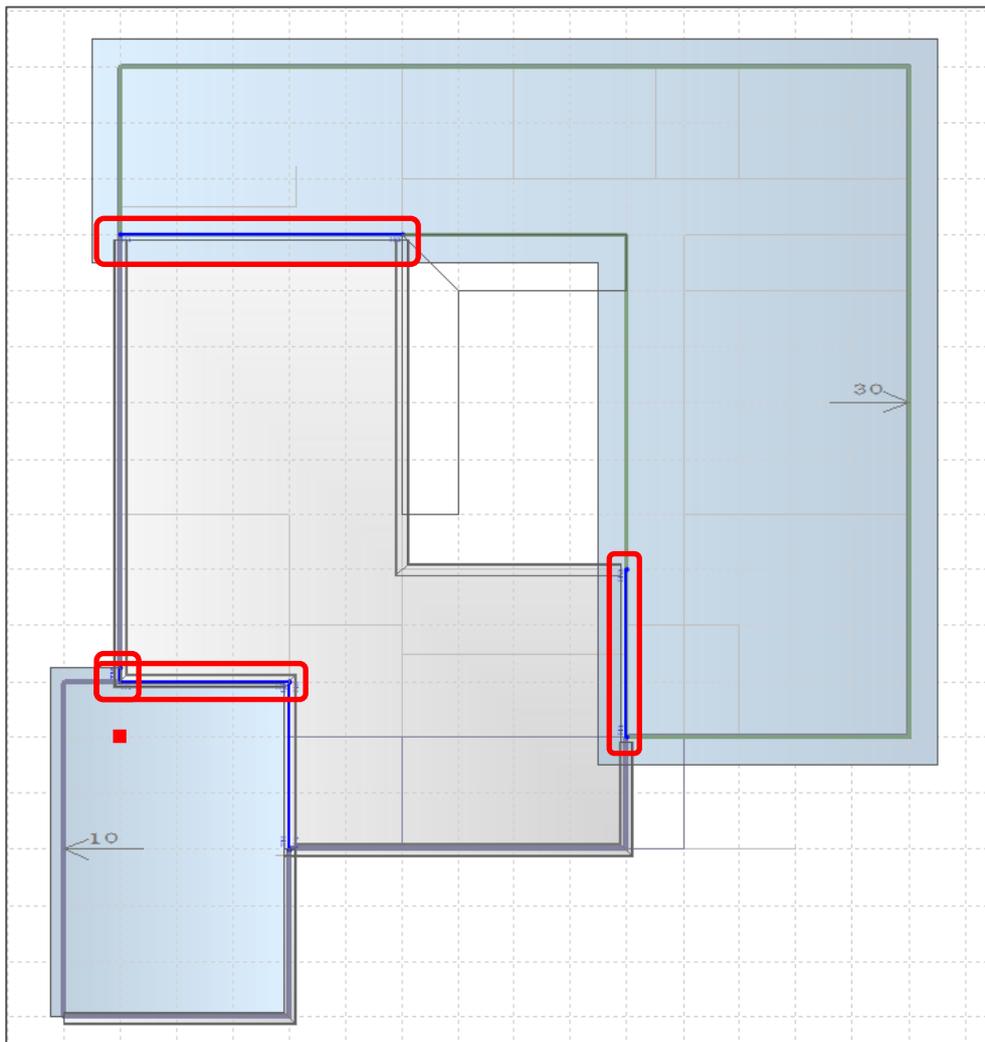
④ 壁を生成したい位置で、起点-終点-方向を指示

- \* 起点-終点は、壁芯に沿って入力します。
- \* 方向は、外側になるほうを指示します。
- \* 方向を指示後、起点 (H1) - 終点 (H2) に青線が配置されます。



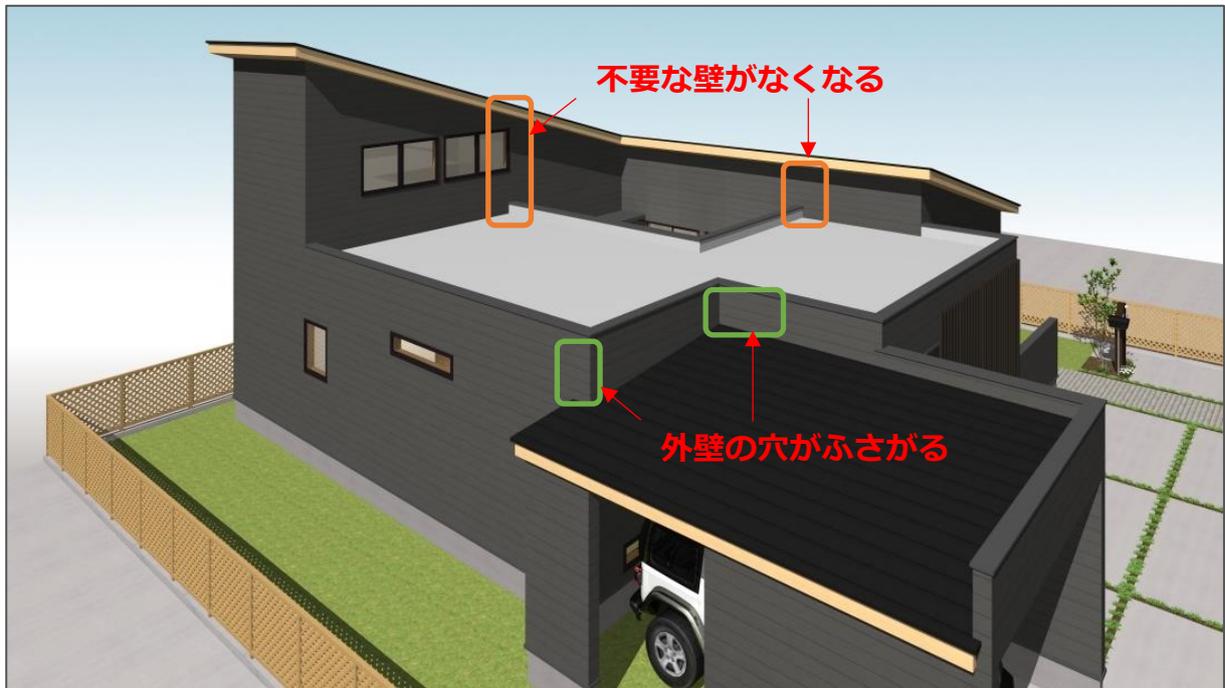
⑤ 同様に、残りの4か所にも屋根間外壁を配置

- \* 壁に穴が開いている箇所と、不要な壁が生成される箇所に配置します。



⑥  (3D パース)で確認

- \* 屋根間外壁を配置した部分に、壁が生成され、壁の穴がふさがります。  
また、屋根間外壁を設定した位置にのみ外壁が生成されるため、不要な壁の生成もなくなります。

**【注意】**

屋根間外壁を配置した階層は、3次元化で屋根間の段差部を埋める外壁の自動生成を行わないため、必要な箇所すべてに屋根間外壁を配置してください。

- \* 屋根間外壁を自動で配置する場合は、 (屋根間外壁(自動))を利用してください。  
詳しくは、A's (エース) のマニュアルまたはヘルプをご覧ください。